あ と が き

第8号刊行以来，3年の月日が流れた．そして，西川　治教授をお送りすることになった．本号は，本年3月退官される西川教授の記念号である．

西川　治教授は，28年の長きにわたり，教養学部人文地理学教室の充実と後進の育成にあたられ，第2本館の早期建替の実現にも努力された．後進一同，永い間の先生の御指導に感謝し，御健康を祈りながら本号の論文を献呈したい．

さて，昭和60年4月より，西川教授から教室主任を引き継いだが，それと同時に本学部の激職の1つである第八委員会に再召集され，10月より3月まで，委員長を仰せつかることになってしまった．したがって，第一委員会に続く教授会では，12月にいたるまで殆んど毎回にわたって，教授・助教授人事と第八委員会報告のため，少なくとも二度はマイクを持って立ち上がるという経験を積んだ．年度末に近付き，駒場・三鷹の両学寮に関する永年の懸案が解決の方向にむかい，ようやく「あとがき」を書く心のゆとりが生じた次第である．

本年度から来年度にかけて，人文地理学教室は，待望の新2号館への移転と，人事移動を含む大きな変化の時期を迎える．

まず，3月1日付で内藤正典助手が一橋大学社会学部専任講師に昇任し，その後任に杉谷隆助手が採用される．3月31日には，西川　治教授が退官され，また鈴木順子事務補佐の後任として迎えた竜造寺慶子さんが退職する．

さらに，4月1日付で田辺　裕助教授が教授に昇任し，その後任として三重大学人文学部から谷内　達助教授が着任する．そして，桜井和代さんが教室事務を担当する予定である．その間，3月1日には，昨年10月10日以来バングラデシュにおける海外学術調査に参加した佐藤哲夫助手が帰国し，本年4月1日以降，人文地理学教室は新たな時代に入る．

本紀要の刊行にあたり，多大の御支援をいただいた第三委員会，人文科学科，事務部に心より御礼申し上げる．

3年半を過した第一研究室より，窓外の雪を眺めながら．

昭和61年2月

山　口　岳　志